北海道から 岩手県へ

氏名　中河原　紘一
北海道札幌東高等学校　→　岩手県立花巻北高等学校
（期間：令和３年４月１日～令和５年３月３１日）

１　派遣先の学力向上等の取組

〇いわて進学支援ネットワーク

岩手県の進学支援事業の一つとして、年数回開催されています。教員人事交流者の報告でも度々紹介されていますので内容の詳細についての重複は避けます。

難関大・医学部へ向けて学力向上という同じ志をもつ生徒同士が刺激しあう貴重な場となっており、コロナ禍においても継続して実施に至っていたことからも、県および県内の先生方の本事業への期待を感じました。

〇１６校会議

県内の進学校が模擬試験の自己採点や共通テスト、大学入試結果などを共有しています。模擬試験等の実施業者の情報も分析・活用をしていますが、結果が生徒へ返却される前に、授業や講習の内容に速報値を反映させられるので、生徒の弱点への対応スピードや模擬試験や受験を終えた生徒に向けた声掛けにも活用でき、大変有用であると感じました。

〇全県システムによる観点別評価の実施

教務支援システム内に評価システムを導入、実施しています。様々議論は尽きない部分ではありますが、県全体で同じシステムを利用することは、将来的には異動した先生方の負担軽減に繋がることが期待できると考えます。

２　北海道に戻って実践したいこと

〇大学進学を志望する生徒に向けた指導

大学入試選抜方法の多様化に対応して、推薦入試に対する生徒・保護者の意向を踏まえた進路相談、選抜試験に向けた面接・小論文指導の方法など、学力向上のみならず、高等学校の教員が情報のアンテナを張り続けなければならないと改めて感じています。

〇ＩＣＴの活用を含めた授業改善

交流２年目にスライドを活用する授業を試みましたが、多くの課題を残しました。コロナ禍に学校内のＩＣＴ機器の整備が進み、授業にもＩＣＴ機器を活用できる環境が整ってきた中で、どう効果的に活用するべきかを考えるべきだと感じています。学力向上と思考力・判断力･表現力の育成を両立させるような授業のありかたを模索し続けていきたいと思います。

〇探究的な活動の時間の活用

派遣校における探究的な活動の時間は、生徒の能力の伸長が顕著であると感じました。個人、グループでテーマ設定、調査、研究、検証、発表（提案）の探究活動のサイクルを経て得た経験は、進学後の研究活動の礎にもなり得るので、学校全体で取り組める仕組みを構築して指導方法の研鑽を続けたいと考えています。

〇おわりに

２年間という短期間ながら､北海道では得られない実体験としての経験を得られたことは、自分自身の今後の教育活動における大きな財産になると確信しています。交流人事を受け入れてくださった花巻北高校の職員、生徒、保護者の皆さま、また部活動指導や教科指導でお世話になった岩手県内の教職員の方々には感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。